

## 第2回 江山地区義務教育学校設立準備委員会（すごい学校創造部会）概要について

1 日 時 平成30年10月11日（木） 19時 ～ 20時30分

2 会 場 神戸小学校 図書室

3 出席者 【委員】  
すごい学校創造部会員9名  
【教育委員会事務局（教育総務課・学校教育課）】  
職員3名

### 4 議 事

#### (1) 江山地区義務教育学校のめざす教育について

- ・9月25日の全体の委員会で各部会より報告のあった「めざす子ども像と小中一貫教育ビジョン」について、その内容を整理した。めざす子ども像としては、「困難なことにもチャレンジする・自信をもつ」、「心やさしい・思いやりのある」、「主体的に学ぶ」といった内容が多かった。めざす教育＝特色ある教育としては、「ふるさとの伝統を引き継ぐ」、「ものや人との交流を生かした体験的な活動」といった内容が多かった。これらは、現在、江山中校区で掲げている「中学校卒業までに育てたい子ども像」の中にも含まれる要素となっている。

#### (2) 江山中校区3校の特色ある教育について

- ・神戸小、美和小、江山中の「総合的な学習」での取組を確認した後、義務教育学校における「めざす子ども像キーワード」、「特色ある教育キーワード」について意見を出し合った。特に、めざす子ども像については、義務教育を終える段階（15歳）で身に付けておくべき力は何か」という観点から、自立した大人をイメージして検討した。
- ・「めざす子ども像キーワード」として、主に「チャレンジする」、「主体的である」、「活力のある」、「ふるさとを愛する」、「思いやりのある」という内容があがった。
- ・「特色ある教育キーワード」として、主に「ふるさとを愛する教育」、「伝統・自然といった要素を取り入れた、人との交流学習」、「少人数だからこそできるきめ細かな学習」という内容があがった。
- ・本日出された意見を参考資料として、教職員で組織する小中連携委員会の中で決定していきたい。

#### (3) ブロック制と生活時程について

- 「小中一貫校における学年段階の区切りの柔軟な設定についての基本的な考え方」、「小中一貫校における学年段階の区切りについてのアンケート調査結果」といった文部科学省の資料や、学年ごとの子どもの発達特性についてまとめた資料を確認した後、ブロック制についての意見交換を行った。
- ・4-3-2制のように5年生を中等ブロックのスタートの学年とした場合、発達段階に個人差が出始めるデリケートな時期なので、配慮が必要である。

- ・ 5年生が大切な時期ということを知ると、5年生で区切らず5-2-2もいいかなと思った。最後の2年で高校受験のことも考慮して学力を高めるとかもあるかなど。これからはいろいろな情報を教えてほしい。
- ・ 教科担任制を早めることの効果があると思う。
- ・ 現在は中学校から成績順位がつくが、定期テストを小学校にあたる学年にも取り入れることで、成績の出し方をどうするか検討が必要である。
- ・ アンケートを見ると全国的に6・3制以外の方が、成果が上がっているようだが、6・3制をとる学校間で転出入があった場合の対応や、小学校から中学校へ進学するという教育環境の大きな変化の機会がなくなることで、子どもにとってのワクワク感が弱くなってしまわないかという課題があると思う。

○生活時程について、美和小学校の5時間制について説明を受けた。

- ・ 午後の学習は集中力が低下する傾向にあるので、午前中に5時間授業を持つことで脳科学的にも効果が認められている。また、授業開始が8時15分からということで、早めることで逆に意識的に遅刻が全くなくなった。午後に1コマしかないので、コマ数の代替も少なくなった。最終校時の後に設けている「みわっこタイム」で、縦割り活動を行ったり、自主的な活動時間が確保できたり、高学年の陸上・水泳練習に当てたり、有効に活用できている。
- ・ 朝の会が5分しかないので、朝自習や読書の時間が確保できない。

※ブロック制と生活時程については、次回以降も引き続き話し合いを行う。

## 5 その他

- ・ 次回の部会を、11月12日（月）19:00~20:30 神戸小学校で開催。